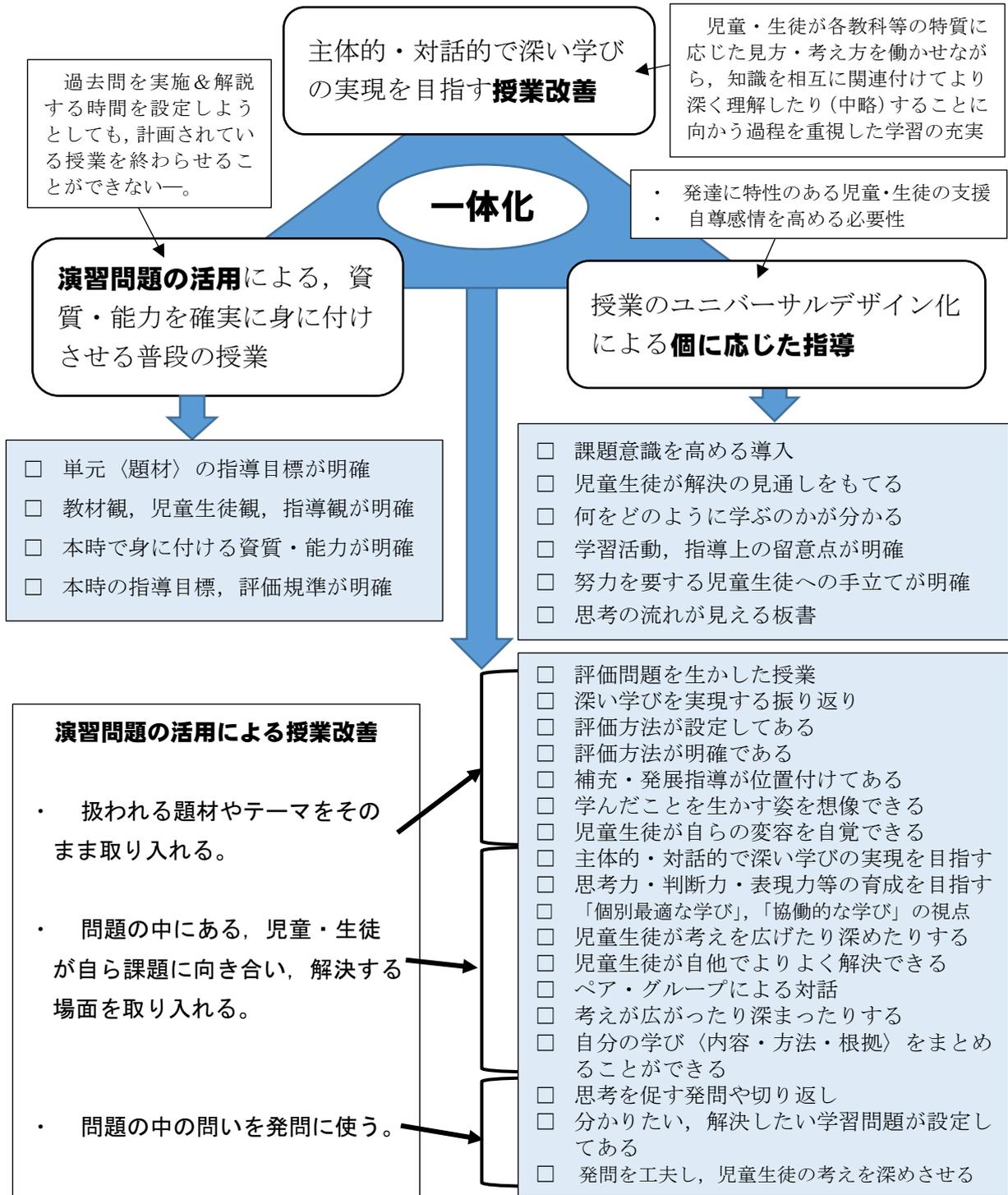


「授業改善」と「演習問題の活用」の一体化に向けて
 —学力調査における設問の要素を取り入れた授業改善—

鹿児島教育事務所指導課

1 目指す学力向上の方向性

当課においては、令和3年度のコアティーチャーネットワークプロジェクトにおいて「授業改善」と「演習問題の活用」の一体化を図る取組を実施してきた。以下に示す考え方にに基づき、学力調査における設問の要素を取り入れた授業改善を推進することで、今児童・生徒に求められている力を、より効果的に身に付けさせたいと考えた。



2 諸調査における設問の要素を取り入れた授業改善に向けて意識してほしいポイント

三つのJ … 字数 時間 条件

今回授業改善に向けたポイントとして設定したのが、この「三つのJ」である。授業においてこれを提示して自分の考えを記述させたり説明させたりするとともに、評価に活用することを提案した。下に示した全国学力・学習状況調査解説資料にあるように、「三つのJ」を設定することによって、どんな力をどのようにして評価するかが明確になり、児童生徒一人一人の具体的な回答状況を確実に把握することができると考えた。

令和2年度問題 小6 **1**—三

○ 目指す資質・能力

話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら自分の考えをまとめること。(A話すこと・聞くこと 指導事項エ)

○ 問題の概要

食生活について興味をもったことを調べ、学級の友達に発表する際、インスタント食品について取材をして情報を集めている場面。「青木さんは、取材を通して分かったことをもとに、インスタント食品のよさについて発表をします。あなたが青木さんならどのように話しますか。次の【発表の様子】の に入る内容を、あとの条件に合わせて書きましょう。」

字数 40字～60字 時間 大問3問／45分→約13分(含、四択2問)

正答の条件1 メモ①からメモ③までの中から、伝えたいインスタント食品のよさを一つ又は二つ以上取り上げて書いている。

正答の条件2 実際に発表をしているような言葉づかいで書いている。

令和2年度問題 中3 **1**—三

○ 目指す資質・能力

自分の立場や考えを明確にし、相手を説得できるように論理の展開などを考えて、話の構成を工夫すること。(A話すこと・聞くこと 指導事項イ)

○ 問題の概要

卒業生から学ぶ会で、先輩の高校生が中学3年生に対し、書道パフォーマンスについて動画を用いて話している場面。「この会の最後に第一中学校の生徒がお礼の言葉を述べます。あなたなら橋本さん(高校生)に対してどのように述べますか。次の条件1と条件2にしたがって書きなさい。なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。」

字数 7行 時間 大問4問／50分→約11分(含、四択2問)

正答の条件1 お礼の言葉としてふさわしい内容を書いている。

正答の条件2 お礼の言葉としてふさわしい言葉づかいで、実際に話すように書いている。

正答の条件3 橋本さんが伝えたことについて以下のa, bの両方、またはいずれかの内容を取り上げて書いている。a メンバー全員で力を合わせて一つの作品を作り上げることが書道パフォーマンスの魅力であること。

b a以外の【橋本さんの話】の内容

正答の条件4 橋本さんの伝えたいことを自分がどのように受け止めているかが分かるように具体的に書いている。

3 学力調査における設問の要素を取り入れた授業改善

- (1) 「授業改善」と「演習問題の活用」の一体化を図るための教材研究において、ぜひ取り組んでほしいこと

本時の目標を達成した表現を、児童生徒の言葉で確実に想定しておくこと。

令和3年度全国学力・学習状況調査の中学3年数学における設問を見ると、全16問のうち、「～説明しなさい。」または「説明を完成しなさい。」と、「説明」を求めるものが4問設定されている。このことから、中学3年生の段階では、問題解決に必要な知識・技能を用いて論理的に説明できることが求められていることが分かる。

したがって、我々は普段の授業においても、生徒がどのように説明すれば正解となるのかなど、本時の目標を達成した表現を児童・生徒の言葉で明確にしておく必要がある。そうすれば、記述させたい表現のモデルを実態に応じて示すなど、教材として活用することができる。また、記述や発表を限られた時間の中で適切に評価するための資料としても活用することができる。

具体的には、次のような想定ができるものと考えている。ここに示す例は、今年度の学校訪問で参観させていただいた授業で示されたものである。

【中1国語の例】

〈目標〉 食べ物の様子やおいしさを読み手が具体的に想像できるように、観点を決めて言葉を集め、紹介文を書くことができる。

〈想定〉 ○○先生が作ってくださったタルメの黄金焼きは、やわらかな乳白色をした卵の海の中に、細切りにした赤いニンジンが泳いでいます。そんな、目にも鮮やかなソースが、純白のタルメを包んでいます。

口に含むと、ふわふわとしながらも、しっかりとした歯ごたえのあるタルメが、甘酸っぱいマヨネーズと合わさり、ご飯が進むおすすめの一品です。(158字)

【小3算数の例】

〈目標〉 加法の用いられる場面を理解して立式・計算し、(3位数) + (3位数)で繰り上がりのない計算の仕方を説明することができる。

〈想定〉 一の位は5と3を足して8。十の位は1と4を足して5。百の位は2と1を足して3。だから、合わせて358円になります。

このように、3けたの足し算は、一の位から、位をそろえて計算します。

(90字)

【中3英語の例】

〈目標〉 社会的な話題に関する英文について意見を伝えられるように、自分の立場を決めて、その理由や根拠を整理し、投稿文を書くことができる。

〈想定〉 自分の意見を伝えるには、Introduction—Body—Conclusionの三段階構成にするとよい。Introductionでは、I (don't) think～。Bodyでは、I have two reasons. First,～Second,～のような定型表現を使うとよい。(135字)

(2) 学力調査における設問の要素を取り入れた授業の例

ア 小学2年国語の例 単元「お話を読んでしょうかいしよう（教材名「スイミー）」

◇ 本時の目標

出来事や登場人物の行動を確かめ、様子が分かる言葉から想像を広げることができる。
(思考・判断・表現)

◇ 学習課題

まぐろにおそわれたとき、スイミーはどんなきもちだっただろうか。また、あなたがスイミーならどんなきもちになるだろうか。

条件1 つぎの文のかたちでかくこと。

スイミーは、①から②と
います。もしわたしがスイミーなら、③
といます。

条件2 ①には、まぐろにおそわれたときどんなことがあったのか、②には、そのときど
んなきもちだったのかを、お話中のことばをつかってかくこと。③には、あなた
がスイミーならどんなきもちになるかをそうぞうしてかくこと。

条件3 100字でいどでかくこと。

◇ まとめ（正答例）

スイミーは、①まぐろにさかなのきょうだいたちを一口でのみこまれてしまったから、
②とてもかなしかった。もしわたしがスイミーなら、③ひとりぼっちになってかなしくて
みんなのなまえをよぶと思います。（92字 一人調べでの記述時間10分を想定）

指導に当たって

学習課題を、演習問題を参考にして設定してみてもうだろうか。これまでは、演習問題そのものをまとめの段階に入ってさせていたことはあったと思うが、それを一歩進めて、導入の段階で学習課題として提示するのである。併せて、条件の提示を「みとおす」段階で行うことによって学習内容への見通しをもたせたい。

「しらべる」段階では、一人調べペアやグループによる対話活動を、「深める」段階では、全体での話合いや教師の説明を通して、正解であるために必要な表現を確認したい。その際には、解答類型を参考にして確実に評価することが効果的である。また、③においては、豊かな表現の例を共有する活動を設定することで、目標の「想像を広げる」ことが可能となる。さらに、一人一人のノートやワークシートには確実に課題解決のあとが記されていることになる。

「ふりかえる」活動として、完成した自分の表現を対話活動で表現し合ったり、清書したものを学習掲示に活用したりすれば、課題解決のより確かな振り返りになるものと考えられる。

イ 中学1年国語の例 単元「わかりやすく伝える（教材名「クジラの飲み水）」

中学校においては、一単位時間で扱う情報量が増えることから、より深まりのある考えを形成することができるように、「効果」のうち最も重要なものを選択させ、

その理由を述べさせることも効果的であると考える。

◇ 本時の目標

- ・ 「ペンギンの防寒着」での学習内容を想起し、本教材で筆者の工夫を見つけることができる。(思考・判断・表現)
- ・ 根拠を明確にして表現の効果を考えることができる。(思考・判断・表現)
- ・ 表現の効果について自分の言葉でワークシートにまとめようとするすることができる。(学びに向かう力・人間性)

◇ 学習課題

筆者の工夫にはどのような効果があるのだろうか。

条件1 一行目には、「筆者の工夫には～な効果がある。」と、結論を述べること。

条件2 二行目には、今日の授業で取り上げた筆者の工夫のうち一つを例として取り上げて、その効果を書くこと。

条件3 三行目には、今日の授業で取り上げた筆者の工夫のうち、最も重要な工夫を一つ選び、次のように書くこと。

「この文章で特に重要な工夫は、である。それは、～だからである。」

◇ まとめ(正答例)

筆者の工夫には、説得力を高める効果がある。

たとえば、グラフを用いることによって、具体的な名前を出してクジラとの比較を行うことで、クジラの性質に関する説得力を高めている。

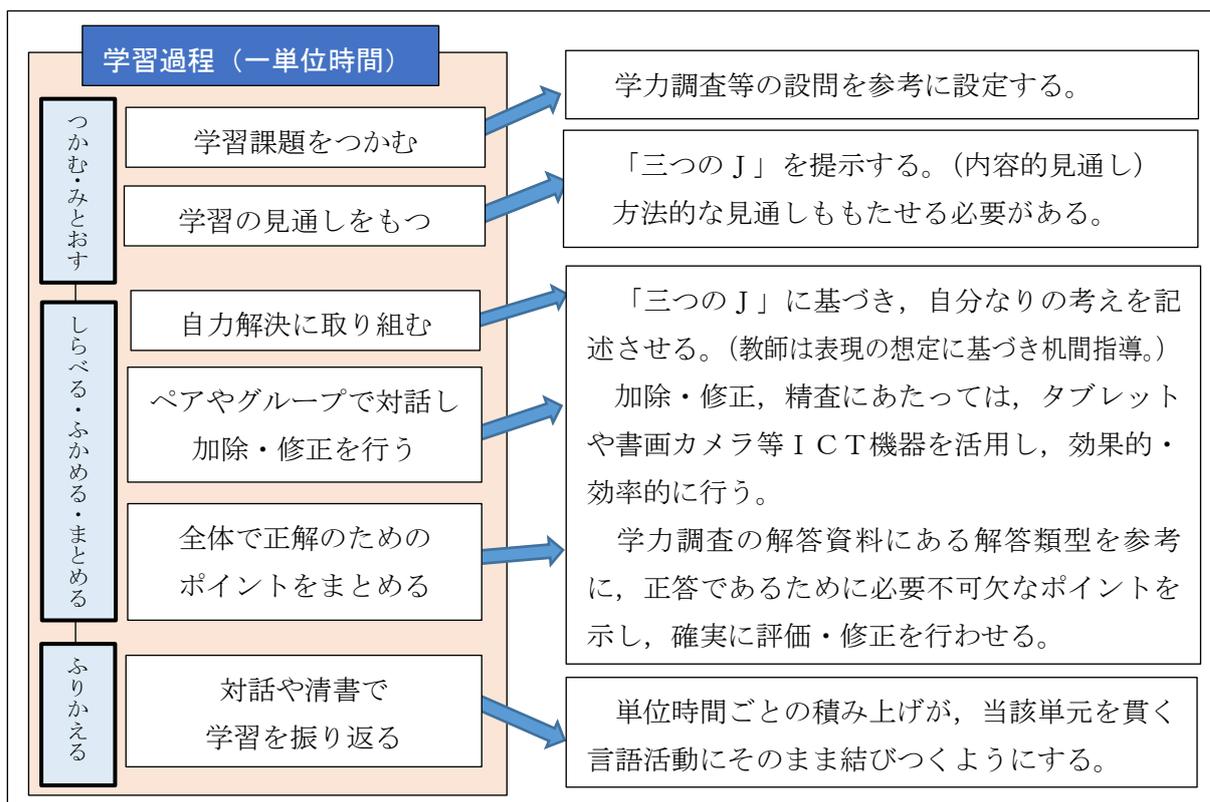
この文章で特に重要な工夫は、反論の予想である。それは、「クジラは体内で水を作る」という、筆者の主張についての説得力を高めるのに効果的だからである。

(字数 107 字 まとめにおける記述時間 5 分を想定)

※ 板書計画

<p>※ この文章で特に重要な工夫は、 ② である。</p>	⑤	④	③	②	①	<p>クジラの飲み水 大隅清治</p> <p>学習課題 筆者の工夫にはどのような効果があるのだろうか。</p>	<p>読み方を学ぼう① 説明文の基本構造</p>
	その他(グラフ)	具体的な名前	具体的な数字	反論の予想	ナンバリング		
	具体的な名前を出してクジラとの比較を行うことでクジラの性質に関する説得力を高めている。	「クジラの食べ物となる動物プランクトンやイカなどの体液は、塩分の割合が海水とほぼ同じなのである。」という文と、グラフが明確に一致している、筆者の述べたいことがわかりやすい。	イメージしやすくなる。読み手に具体的な量が伝わりやすくなる。	水分の必要性に関する説得力を高めている。	どのようにして飲み水を得ているのかという仮説をいくつ立てたかがわかりやすい。		

(3) 授業改善のモデル



4 考察

(1) 「三つのJ」を明確にすることは、単元構想を具体化することにもつながる。

中学校の実践では、複数の資料を関連付けて批判的に読み、自分の考えを表現する力を育成するために、教材文や新聞記事等を複数の資料として関連付けることを条件として提示していた。つまり、教材研究の際に条件の内容を吟味することは、生徒にどんな教材と出合わせ、どのように表現させればよいかを考えることになるのである。それを生徒の実態に応じて時間設定していくことで、適切な単元構想ができることが分かった。また、字数については、高校入試における類似問題を踏まえて設定するなど、求められる表現力としてどれだけ書けることを期待するのかを検討する必然性が生じることも分かった。

(2) 目標を達成した児童・生徒の表現を想定することは、深い学びの実現につながる。

これを確実に実施している先生は、児童・生徒の表現からポイントになる部分を適切に評価し、他の児童・生徒の表現とつないでおられた。ポイントになる部分というのが、本時で習得・活用させたい知識・技能であり、複数の知識・技能を児童・生徒自身がつなげるようになることが、深い学びの実現につながる。そのためにはまず、教師は、誰がどの知識・技能をつかんでいるかを見取る必要があり、目標を達成した児童・生徒の表現を想定しておくことが、それを可能にすることが確認できた。

(3) 今後の実践に向けた提案

ア 調査問題、演習問題をどの単元でどのように使うか、年間指導計画に位置付けてはどうか。実態に応じて必要な設問を導入することで達成状況を明確にできる。

イ 「三つのJ」を日頃から取り入れてみる。繰り返し実践することで精度は上がる。